長瀞町って、どんなとこ！こんなとこ!!

インタビュー編

町長を囲んで、移住者たちの“いいたい放題”
長瀞町のいろいろが見えてきた！

自然と人。それが長瀞のかけがえのない財産。

移住者から見た長瀞町はいったいどんなところなんでしょうか？　そして、どんな魅力があるのでしょうか？　そこで実際に移住してこられた方々に集まっていただき、町長を囲んでの座談会を開催しました。住んでみて分かる長瀞の良さ、たっぷりと語っていただきました。

「川と暮らす。それがライフスタイルに」

長瀞に移住された経緯をお聞かせください。

平井琢さん:以前は東京で会社員をしていました。2000年に会社の先輩が長瀞で新しくラフティングの会社を立ち上げるということで、オープニングスタッフとして参加したんです。正直、それまでは長瀞の瀞の字も読めないぐらい、長瀞のことはまったく知りませんでしたね（笑）

2012年に私自身がラフティングの会社を設立する時、仕事とライフスタイルを一緒に楽しみたいと思いました。いつも川のそばでアウトドアを楽しめるような暮らし方、つまりそれって生き方になるのかな。それで購入したのが今の住まいです。家から直接、川に下りられる理想の環境なんですよ。

平井久子さん:私は埼玉県春日部市出身で結婚するまでは東京で一人暮らしをしていました。結婚を機にこちらにきて、当初は長瀞近郊のアパートに住んでいました。でも、子どもが生まれて、どうしても長瀞の自然に囲まれて子育てをしたいと思ったんです。だから、ネットなどを駆使して懸命に長瀞の物件を探しましたね（笑）

田中冨美恵さん:私たちはいわゆる移住の先駆者じゃないでしょうか（笑）。なにしろ、埼玉県の旧上福岡市から長瀞に移住して19年が経ちますから。当時、夫は自営業、私は勤めに出ていましたが、「老後の暮らし」にとても不安を持っていました。その時、たまたま「60歳からの人生は50歳で決めろ」という内容の本に出会ったんです。

当時、私もちょうど50歳。常日頃、老後は夢をもって暮らしたいと思っていましたし、「故郷願望」が強かった。なぜなら、私の両親が仕事の関係で各地を転々としていたため、私の故郷がなかったんです。そこで、すぐに仕事を辞めて、関東近辺を見て回り、今の場所に出会ったんです。後にカフェを開く時、「風の丘」という店名にしたんですが、そこは本当に風が吹き渡る丘でした。しかも、その綺麗な景色が決して特別なものではなく、普通の暮らしの中に馴染んでいました。ドキドキするほど心が動いて、私の中ではほぼ即決でしたね（笑）。

田中仁さん:そうして私の両親は19年前に長瀞に移住したわけです（笑）。私は息子なんですが、もちろん、当時、私も自立をして東京で仕事をしていたので、長瀞に移住をした両親のもとへ帰ることもほとんどありませんでした。正直、「なにもない田舎だろう」くらいにしか思っていなかったし。

そんな自分の価値観というか世界観が変わったのは、2年間の世界旅行ですね。妻と二人、お金のないバックパッカーとして世界を回ったんですが、旅行者がこない田舎を訪れることが多かった。そこは、ゆっくり時間が流れている。そして、小さいコミュニティで生活することの楽しさを知りました。

田中さおりさん:都会はどこも一緒。人がいて、建物がひしめきあってキラキラしている。最初は魅力を感じてもすぐにあきちゃう。その点、田舎は違いましたね。その土地の文化がしっかり残っているところにも惹かれました。

仁さん:そんな経験をして帰国後、一旦、実家に戻ってきたんです。そしたら、不思議なことに旅行に行く前の長瀞と、帰ってきてからの長瀞の景色が違って見えた。「すごい、いいところだったんだ」って。季節は秋。どこもかしこも最高に綺麗でした。川があって、山があって、電車がある。こじんまりとしていて、欲しいものは手に入る。場所として、こんなに条件がそろっているところはないなと感じました。

それと、長瀞に移住したもう1つの理由が大豆です。世界旅行から帰ったら豆腐屋をやろうと妻と計画していたんですが、偶然にも長瀞にはおいしい大豆が手に入ると教えてもらい、それが大きな決め手になりましたね。

長瀞の魅力ってなんでしょう？

久子さん:四季を肌で感じられるのが一番の魅力だと思います。燃えるような紅葉の秋、満開の桜が楽しめる春。そして風や空気でも季節を感じられるんです。朝から夜に変わる空気、綺麗な星空や月。子育てもようやくひと段落して、最近、やっとそういう時間を楽しめるようになりました。こういう魅力って、やはり住んでみないと分からないと思います。

仁さん:そうそう。自然はやっぱり、長瀞の一番の財産ですね。それと、やはり東京から近いのも魅力じゃないかな。

さおりさん:そうです。店をやっているとどうしても世界がそれだけになりがち。だから、時々、リフレッシュするために東京に行きます。東京に気軽に行けるというのも重要なポイントですよね。

町長:実際、東京に通勤している人もいらっしゃいますし、東京の大学に通学している学生も多いようです。

景色はもちろん、空気や風から季節を感じられるんです

冨美恵さん:私たちはカフェを営んでいるんですが、人との出会いが大切な財産であり、それが長瀞の魅力だと思います。たくさんの地元の人に出会って、暮らしが豊かになりました。小さな町だからこそ、そういうつながりもできたのかなと感じています。

また、私は母と一緒に移住したんですが、母、私たち、そして子どもたちが帰ってきて、孫もできました。まさに、故郷ができたわけです。人とつながること、自分の歴史を紡ぐこと、それらは長瀞だからこそ、叶えられたのだと思っています。

町長:春夏秋冬、山の景色が変わり、どの橋から見ても川が綺麗です。これは、素晴らしい魅力だと思います。東京から近いというのも、その通りですね。私も日帰りでよく、東京に足を運びます。さらに加えさせていただくと、「災害に強い町」でもあります。長瀞の岩畳でも分かるように、しっかりとした岩盤に覆われているのがこの地域の特徴です。これはつまり地震に強い町といえるでしょう。「安心」も、住まう上で重要なポイントかと思います。

移住後の経験談などをお聞かせください。

久子さん:移住した当時は知人や友人が一人もいませんでした。その中で妊娠・出産、そして子育てに突入。最初はとても不安でしたが、未就学児の母子が集う「長瀞町世代間交流支援センターひのくち館」へ足を運ぶようになりました。そこで子育ての悩みを話したり、子ども同士もお友達になれたりして、母子とも、すごく助けられましたね。

また、この4月から息子が通っている保育園は自然と深く関わって生活するという方針なんです。子どもも裸足で走り回って、元気いっぱい。都会ではなかなか経験できないことですよね。もうすぐ二人目が生まれますが、子育て環境が充実しているので不安はないです。待機児童ゼロというのも都会の人からしたら大きな魅力だと思いますよ。

それと医療費が18歳まで無料というのも、本当に助かっています。とくに小さい子どもは具合が悪くても訴えることができないから、ちょっとでもおかしいなと思ったらすぐに病院で診てもらいたい。経済的な心配をせずに病院に連れて行けるのはありがたいですね。

仁さん:うちは今年の夏に新しい家が建つ予定ですが、町が行っている定住促進事業住宅取得奨励補助金を申請しました。

さおりさん:これ、とってもありがたい事業です。家を建てる費用はローンを組みますが、新しい家はそれだけでは済みませんよね。電化製品や家具など、実際、住んでみると、さらにあれが欲しい、これが必要だったとなります。補助金はそういう出費に大いに役立つと思います。

琢さん:うちも中古住宅を購入した時に補助金をいただきましたが、非常に助かりましたね。

これからの長瀞に期待することをお聞かせください。

さおりさん:医療関係の充実ですね。実際、一人目の子どもは深谷市で産んだんです。産婦人科に限らず、精密検査など、詳しく診てもらいたい場合、現在は町外の病院に行かなければなりませんからね。

久子さん:小児科も近くにあるといいですね。夜間などに何かあった時でも、長瀞にあれば安心です。

町長:確かに全国的にみても医師不足は課題となっておりますし、とくに産婦人科は厳しい状況にあります。その中で数年前からちちぶ定住自立圏と埼玉県からの補助金を活用し、秩父地域の1市4町が産科医療への取り組みを始めました。現在、産婦人科は秩父市に診療所が一ヶ所のみという状況ですが、埼玉医科大学病院や埼玉医科大学総合医療センターなどから医師を派遣していただき、里帰り出産にも対応するなど妊

産婦受け入れの体制を充実させているところです。

また、平井さんのケースのような深谷市をはじめとして、地方都市へのアクセスも良いため、秩父にこだわらず、ほかの地域の病院を利用する人も多いようですね。医療関係もそうですが、実際、高校や勤務先なども熊谷市や深谷市、本庄市といった近隣都市を選んで、長瀞から通う人もいます。選択肢がそれだけ多いというのも長瀞の特長ではないでしょうか。

さおりさん:私も熊谷の助産院で産みました。車で35分ほどでしたので、遠いという感覚はありませんでしたね。

仁さん:医療以外で期待することは「観光」ですね。僕は今、観光に関わる仕事をしているので、これからもっと観光の範囲が広がってくれればいいと願っています。長瀞町は観光地としても有名で毎年、200万人以上の観光客が訪れます。でも実際、人が集まるのは川下りで有名な岩畳か、その近くの宝登山ばかり。とてももったいない。例えば無料の駐車場を整備するとか、周遊ルートを設けるなどして、観光地としての範囲を広げれば、観光事業の可能性も広がるはずです。そうすれば、仕事も増えるし、人も増える。もっと、長瀞が面白くなると思うんです。

町長:観光に関しては荒川の中洲にある蓬莱島公園に桜を植栽するなど周辺整備を進めています。ただ、やはりPR不足もありますので、こうした観光事業をもっと宣伝していくのが今後の課題ですね。

冨美恵さん:長瀞は静かに暮らすにはとても良い場所です。生涯現役で、自給自足に近い生活で最後まで頑張れるのが理想。私は今、ストレスがまったくないんです。自分のペースで生活ができているし、経済的にも決して裕福ではないけれど、「夫婦二人の食事が取れればいい」って考えれば、何の不満もありません。

観光の可能性をもっと広げていきたい

参加者紹介

平井琢さん、久子さんご夫婦

東京での会社員経験を経て、ラフティング会社のスタッフとして長瀞へ。2012年にはアウトドアスポーツのツアーなどを行う株式会社アムスハウスを設立。2014年、久子さんとの結婚を機に長瀞に住宅を購入。湧くん（2歳）との3人家族。

田中修二さん、冨美恵さんご夫婦

19年前、定年後の暮らしを考えて埼玉県ふじみ野市から夫婦で長瀞町へ移住。自然豊かな丘陵地で、冨美恵さんがゆったりとした時間が過ごせる「カフェ・ギャラリー風の丘」を営んでいる。

田中仁さん、さおりさんご夫婦

田中さんのご長男夫婦。両親の移住がきかっけで長瀞に魅了される。2009年、築100年の古民家で開業した「長瀞清流お豆ふ処うめだ屋」は地元のみならず観光客からも人気の店。はるちゃん（7歳）、創士郎くん（4歳）の4人家族。

自分の思いに正直に、移住ってそんなに大変なことじゃない…

私はここに住めて、本当に感謝しています。だからこそ、もっとほかの人にも長瀞の魅力を知ってほしい。そのための手段として、空き家を活用するのもいいのではないでしょうか。私の家の近くにも空き家がありますし、これからさらに増えると思います。それを移住のための体験施設に使うとか。良い方法があるといいなといつも考えています。

例えば、半年とか、一年ペースで移住希望者に貸してみる。住んでもらえば、家も生き生きしますよね。借りる側もいつでも引き上げていいと思えば、結構、気軽に移住体験ができます。そうすれば、住んでこそわかる長瀞の魅力、たとえば季節の微妙な移り変わりとか、そういうことが体感できると思うんです。

町長:その通りですね。町でも移住体験の計画を進めているところです。基本的には一年を考えており、春夏秋冬の良さをわかってもらえたらと期待しています。空き家に関しては、町ですべて調査してありますので、今後、貸してもいい人、売ってもいい人をピックアップして声をかけていこうと思っています。

また、子育てに関しては、今後もさらに注力していこうと考えています。具体的に現在、整備を進めているのが長瀞地区公園です。親子で遊べるスポットとして活用していただきたい。また、雨の日に子どもが遊べる場所がないという要望に応えて、子どもとお年寄りが交流できる天候型の施設も計画しています。

最後に、これから移住を考えている人たちにメッセージをお願いします。

琢さん:一言で言えば、「ハードルは思ったほど高くない」ということ。物件探しとか、経済的なこととか大変な部分もあるけど、その壁を乗り越えてきた私たちからしたら、実はその壁って意外に気軽なものでした。移住して、自分のライフスタイルを新しい土地に合わせていくというのは決して、思っているほど大変なことじゃない。

そうはいっても一番のハードルとなるのは仕事じゃないのかな。でも実際、長瀞から東京に通勤している知人もいます。もちろん、東京にいた時より通勤時間は長くなります。でも、何かを手に入れるために、何かを削る、なにかを手放すのはしょうがないこと。

たとえ通勤が長くなったとしても、それ以上の価値が、ここにはあります。たとえば、出勤するために家のドアを開けて、田舎道を歩きながら駅へ向かう。その道すがらの景色、そして電車を待っている時の充実感。そんな生活の何気ない一コマの中で、心の豊かさを得られると思うんです。

久子さん:そうですね。東京から近いのだから、あまり気負わずにきてもらいたい。たとえ数ヶ月だけでも、ここに身を置いたら、絶対に長瀞の良さがわかってもらえると思います。それは、移りゆく季節だったり、空気だったり。

都会に住んでいると、自然の体験をするのにお金を払いますよね。ここにいると、自然がすぐ近くにあって、触れて学ぶことができます。生活の一部なんです。だから、とくに子育て中の人には、おすすめしたい。保育園に行く道の途中で小さな花を見つけたり、お月さま

を眺めたり。そういう小さなことに子どもが感動するっていうことを、ここにきて知りました。

さおりさん:都会でも田舎でも、どこに住んでいたって、できること、できないことがあります。だから、まずは飛び出してみること。もし、ここが気に入って定住先にしようって決めたのなら、ほかのことは後から付いてくると思うんです。移住ってそんなに大変なことじゃない。それより、「魅力を感じること」を優先にして、それを大切にしたら、とてもいい世界が広がっていくような気がします。私たちのように(笑)

田中修二さん:そう。思い立ったら、行動してみることが肝心です。考えていても前に進めませんからね。私たちのようにゆったりと老後を暮らしたいと思っている人にはぴったりの場所じゃないでしょうか。

仁さん:私も住めば住むほど、ほんとうにいいところだなと、しみじみ感じます。豆腐屋という仕事柄、朝がとても早い。夜明け前に家を出るんですが、冬の寒い朝なんかとくに最高です。藍色の空にうっすらと山のシルエットが浮かび上がって、豆腐屋に着いて空を見ると星が瞬いている。それって最高の贅沢じゃないですか?　悩み事があっても、流れる雲や山を見ていると自然と忘れられる。絶対、都会では手に入らないものが、ここにはあると自信を持って言えます。

さおりさん:あとは人が温かいですね。都会で一人暮らしをしていた時、隣の人の名前も知らないというのが当たり前でしたが、ここでは、店をたまに休むと近所の人が気にして声をかけてくれる。気にかけてくれる人がいるというのは、とても心強いですね。

冨美恵さん:人生は一回ぽっきり。だからこそ、夢を叶えて死ぬかどうかです。定年後、田舎暮らしを夢見ている人はぜひ、「ここで暮らす」という覚悟を持って移住してほしい。その覚悟さえできていれば、ここでの暮らしはバラ色です。

町長:みなさんのおっしゃる通り、朝晩の景色の素晴らしさは格別です。豊かな自然があって、なおかつ都心にも近く、立地にも恵まれています。この素晴らしさをぜひ、多くの方に体験していただきたい。そのための準備を町でも進めていきたいと思っています。

　また、長瀞は埼玉県屈指の観光地である一方、高齢化による不耕作地も増えているので、農家レストランや農家民宿といった、ここならではの仕事も今後、広げていけるように思います。もちろん、仕事は近隣都市に求めて、生活をゆったりと長瀞で送るというのも素敵なライフスタイルですね。

　平井さんや田中さんのように若い人たちが長瀞の観光を盛り上げ、そしていつしか田中さんのご両親のように長瀞が故郷となり、老後は自然に囲まれて静かにゆったり暮らすというのが理想ではないでしょうか。長瀞は懐が深いといいますか、そうした様々なニーズに応える可能性を秘めている。皆さんのように移住してきた方たちに新たな長瀞を開拓していただき、さらに魅力ある町を創っていきたいですね。